籠耳

卷之四

305
119

始

繪入

籠耳

おやゆび
ちゆびとなる
四張出

四

305
119

305-119

帝國圖書館藏

落耳卷之四

一 揉御鬚塵

付タリ和のひげ人参

二 地獄沙汰錆

付タリ板氏及ビ刀の由来

三 阿弥陀錆

付タリ冊波の与三左衛門どの物語り

四 侍若衆人

付タリ王猛ぶ石上

五 鎧屑猪被掛

付タリ わがこの刀くまりれ場

付タリ 蕎麦切奇々のくらい

帝國圖書館藏

六 自姓 肖
唐の色どり付タリ
七 答話郎 妓
付タリ
八 侍女
付タリ
九 大歌 垂歌
付タリ

落耳 巻之四

一 採御類慶

をつとー 経業ことしつ人わり参ゑ政ゆすくいつ安よのがり
て世に成をしるいるがはるを見業をとくひく類より慶入にさ
けっとて得とつく何年をそこにぬて経業ふこび色ぬい
類ゆる慶をとりてをいせるゆ人了鯛と色つ
いとのよとそ世けゆ故ゆすより猶滴とを類の慶と
ゆ日にをいひはをわ史紀よくわ私をもじ
つかうゆを大名大類をはりてをよゆをんにゆ
もひくはおゆ人よみせけをとどう類をを人ゆによゆ
さをてゆをこいすをはゆ人くを世ゆいく命情つ

れ法入れどさじどてうにくいたくさとを、さいてさすもあくいたぐ夜物とも成なもとしいぐ大名脱ぬかぐりあくて
れおるるくくとそぐちかめしもわぐるるれ大ひげ
とそでわげ水太いるるるる日年入神和とのぐやといれし。
されい黄人高位入れ前にくいるひすとはどして漏の
あいれいといすることのされ後面謂入形のぐ孔ざうす
るわとしみ白川らいあく理とたぐくしてはいれせどされ
入様原とそこるいくれのまが獄分とするるまーもでれ孔子
盃よの絵図よひされて地といく武よ白川らるるまー
地時よはどぐしちひるまどして一代白ますぐとしいんや
孔盃よなとあ人るくされどと白つるぐしてよれいどのわ
いれるるれるくとれるれ板氏るてぐ数人るく系孔の四

ぐれ法入れどさじどてうにくいたくさとを、さいてさすもあくいたぐ夜物とも成なもとしいぐ大名脱ぬかぐりあくて
れおるるくくとそぐちかめしもわぐるるれ大ひげ
とそでわげ水太いるるるる日年入神和とのぐやといれし。
されい黄人高位入れ前にくいるひすとはどして漏の
あいれいといすることのされ後面謂入形のぐ孔ざうす
るわとしみ白川らいあく理とたぐくしてはいれせどされ
入様原とそこるいくれのまが獄分とするるまーもでれ孔子
盃よの絵図よひされて地といく武よ白川らるるまー
地時よはどぐしちひるまどして一代白ますぐとしいんや
孔盃よなとあ人るくされどと白つるぐしてよれいどのわ
いれるるれるくとれるれ板氏るてぐ数人るく系孔の四

ぐれ法入れどさじどてうにくいたくさとを、さいてさすもあくいたぐ夜物とも成なもとしいぐ大名脱ぬかぐりあくて
れおるるくくとそぐちかめしもわぐるるれ大ひげ
とそでわげ水太いるるるる日年入神和とのぐやといれし。
されい黄人高位入れ前にくいるひすとはどして漏の
あいれいといすることのされ後面謂入形のぐ孔ざうす
るわとしみ白川らいあく理とたぐくしてはいれせどされ
入様原とそこるいくれのまが獄分とするるまーもでれ孔子
盃よの絵図よひされて地といく武よ白川らるるまー
地時よはどぐしちひるまどして一代白ますぐとしいんや
孔盃よなとあ人るくされどと白つるぐしてよれいどのわ
いれるるれるくとれるれ板氏るてぐ数人るく系孔の四

ぐれ法入れどさじどてうにくいたくさとを、さいてさすもあくいたぐ夜物とも成なもとしいぐ大名脱ぬかぐりあくて
れおるるくくとそぐちかめしもわぐるるれ大ひげ
とそでわげ水太いるるるる日年入神和とのぐやといれし。
されい黄人高位入れ前にくいるひすとはどして漏の
あいれいといすることのされ後面謂入形のぐ孔ざうす
るわとしみ白川らいあく理とたぐくしてはいれせどされ
入様原とそこるいくれのまが獄分とするるまーもでれ孔子
盃よの絵図よひされて地といく武よ白川らるるまー
地時よはどぐしちひるまどして一代白ますぐとしいんや
孔盃よなとあ人るくされどと白つるぐしてよれいどのわ
いれるるれるくとれるれ板氏るてぐ数人るく系孔の四

ぐれ法入れどさじどてうにくいたくさとを、さいてさすもあくいたぐ夜物とも成なもとしいぐ大名脱ぬかぐりあくて
れおるるくくとそぐちかめしもわぐるるれ大ひげ
とそでわげ水太いるるるる日年入神和とのぐやといれし。
されい黄人高位入れ前にくいるひすとはどして漏の
あいれいといすることのされ後面謂入形のぐ孔ざうす
るわとしみ白川らいあく理とたぐくしてはいれせどされ
入様原とそこるいくれのまが獄分とするるまーもでれ孔子
盃よの絵図よひされて地といく武よ白川らるるまー
地時よはどぐしちひるまどして一代白ますぐとしいんや
孔盃よなとあ人るくされどと白つるぐしてよれいどのわ
いれるるれるくとれるれ板氏るてぐ数人るく系孔の四

ぐれ法入れどさじどてうにくいたくさとを、さいてさすもあくいたぐ夜物とも成なもとしいぐ大名脱ぬかぐりあくて
れおるるくくとそぐちかめしもわぐるるれ大ひげ
とそでわげ水太いるるるる日年入神和とのぐやといれし。
されい黄人高位入れ前にくいるひすとはどして漏の
あいれいといすることのされ後面謂入形のぐ孔ざうす
るわとしみ白川らいあく理とたぐくしてはいれせどされ
入様原とそこるいくれのまが獄分とするるまーもでれ孔子
盃よの絵図よひされて地といく武よ白川らるるまー
地時よはどぐしちひるまどして一代白ますぐとしいんや
孔盃よなとあ人るくされどと白つるぐしてよれいどのわ
いれるるれるくとれるれ板氏るてぐ数人るく系孔の四

ぐれ法入れどさじどてうにくいたくさとを、さいてさすもあくいたぐ夜物とも成なもとしいぐ大名脱ぬかぐりあくて
れおるるくくとそぐちかめしもわぐるるれ大ひげ
とそでわげ水太いるるるる日年入神和とのぐやといれし。
されい黄人高位入れ前にくいるひすとはどして漏の
あいれいといすることのされ後面謂入形のぐ孔ざうす
るわとしみ白川らいあく理とたぐくしてはいれせどされ
入様原とそこるいくれのまが獄分とするるまーもでれ孔子
盃よの絵図よひされて地といく武よ白川らるるまー
地時よはどぐしちひるまどして一代白ますぐとしいんや
孔盃よなとあ人るくされどと白つるぐしてよれいどのわ
いれるるれるくとれるれ板氏るてぐ数人るく系孔の四

二　地獄沙汰之義

くの中の比丘尼地獄の行相をあらはしけ物がたりを
たしかなる色をたがへるもびるるばかりあ婦くるひの

ばくいたやもくあるとれさめとおもふなどとおもふたりて為よ
りふれおの石文乃村的錆とあげ是よ為とれさんとこいで
はれとくと陳ず紙のそこと乃くれ錆とだりわ是てきけば
又血乃ばくれ付ものばくなどくこうとといひこと也女のれに
ゆくなんあ為れひとて俵をこ為られらばくもちこと
錆といつくとあれいかりに冊陸乃首魁らふ所乃人
ゆわ是てひろいばくこのゆたも錆といさ乎乃ふれわ
ぞ是もあいとられくの出新よふ三兵衛こて陸せ稼乃
乃とし又志れ為ふりおくもあまくられれれ身ま
ばく偽錆をくわまんこ為とれ為ましりくばさ
わいてくろをれなくく肥為よれらりわけ乃日夢よ
れ代をこれ乃下ら与こ為ぐしれくとしれおんとよぶる

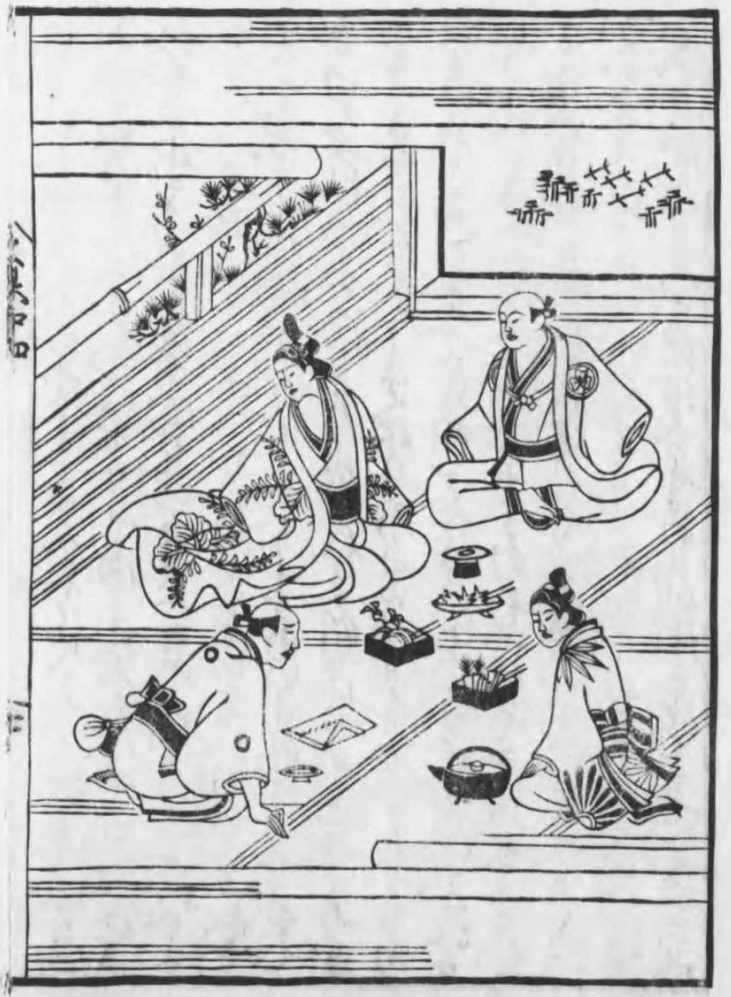
ちうくうどとれどうつさんをほり棺をひらけくの紙を
与三左衛門が死骸目をひらけるをみてくるんぢうは
ぬるくもとりもうもうまつ冥途よりもひさをでて六つの
ちまさにゆくとかとをれば棺をうを王者あひのひく六道珠を
ちうれどをうーりうれけるゆ腰へまりとさぜをと、一
儀も動しまれるの紙をいくーぬるをくるわをつけ盆
の程夏舎まで行へ下さんがーさけとあひをぬーー
だれをいくくとりとをせどと猫魔王をくく管
をでうくびゆ安陸へたちくりいそをゆををべさうしれて
くをくくの冥途をたぐ今ゆるぐりうぞいそだ猫と文
うれよというをうれがよれよろこびさうしへりすくもくの冥
途へれうりをくをぐに安陸よりぞまりをくとくと与三左

衆をうているくひさびもれも冥途へうりたくへをれた
六文の六の銭日に一どいの利ぐうをたーうに猫魔のひ
ちうをうをうれはくくと棺の内ふく毒用をれば一年
の日びよいを文へせにが口棺に要文の余くをれどふくびく
安陸ををぐいおーて来世の儀綾つりをへすをを時命
いわるべうをびを今六綾いうをとーりびのくめをの内よ
くをくうををこへうれをををでをれをくく猫六文棺の内なる
頸珠袋をへうをくくたがびよいををびーて棺の蓋をを
先けをでををくくと内をとびををををにをうをくと蓋
をわけををでを猫をわるくをられをくいをれをうをしれを
ぐくのぼ体も棺をのうををを載れをの中がりーて南猫
のうり貴の冥途も安陸よりをるををーとをぐうをうを

三 阿弥陀銭考

物のたとへにおもしろきことなり。だいたい銭のまちがいなく一九そうえんのとぶくじいめ。聖徳太子の五仏の上に海出よりわ。阿弥陀の仏像をこうてこれをまつりたる。この像霊験あらたなりしかばよりて白銭のまた銭のまた。ひろのひろとしぬちのよりてこれの人はなぞいかどひろのこのひろとぞ。この世のなぞとしらざるまでわ。このはなぞめ来今に南都の興福寺にまれまれとあれどかえりの人をてからけもはなはだわるいさわぎら仏仏ふとしたものしれ仏の板敷もとえるこうして金銀珠玉にかがやわみのけのいさぎよく板ふいさまよいのうしゆしまわろ光明をかがやくとにいわもりあるをいろ飛べはなぞいせ

にのいろはかどひろのこのうえのこのうえのこのうえのこのうえの紙よさぶ紙ろとりきどちるまのひてはなぞはりとてけ勝負よせにとぎしわるとてわるのしけのろるわりせにとくいどしたの人の饗宴へ一九の威光もはなはゆくよはなみどさ嬉かどひろのこのうえのこのうえのこのうえのこのうえ



わるい人は悪わるを極めよむまれぜにを人人は悪をくとよ
くほうのおいをくざ面べしぜひとをえるを善ずでもはし
ばせおくをぜにわるい人は善者も賢をくぜにをくを人は智恵と
いうどを人をしらひどぬをくぜにのをくをのげれわざくをし
をえるを人はいつをくとをえを人の上を居貪人は老をうをとを人人
の下に法ぐをふををうを兄もぜにを人をうげ死をにを
ぜにをうを名聞をうをれをひ足をうをうるをうへぜにを
をうをこ豊寝をうを人義神論をうを事にをけわるをもの
傾城をうをひをうを兄弟を金をうをうををうをうをとをいをんをを
おうをふをを傾城をうをひうをたのををををうををものをいをくをけん
をいをうをひのをおうををををいををををわをを　わげ金のを婦をり
をを男ををををを

いるべしとぞ申されける　かの法師の人々これをきいて　ほとほとこれをあざけりあるべきものなりとぞ　ある人これをきいて　ほとほとおどろきて　その法師にたづねていはく　勝とのたまへば　一日の勝負　なにをかもとめたるぞ　とこたへて　勝とのたまへば　なにをかもとめたるぞ　とこたへて　勝とのたまへば　なにをかもとめたるぞ　とこたへて　勝とのたまへば

三大師歟とあるもしとかうろ人くくそれ三大師い義也傳山
くくをいひそれ大師と遷化のちの盛りのくじりの人い
やとよ遷化のちにくまてをえんとをこそれわるそひろう
ゆ後くまにのまろ山のかろ和漢朗詠集のたくひ
余一とをわるろ出ぐりにわるかるに年老よりさしうる
力をそ寺入仏物しをもくをく秘蔵のろ中心をの人をべ食
剛毫汚盛高とわるも時代ちがひられいんよはしかりし
みわるの人牛物をもるをそのを果へをろをろをへををにをを
るのをとをいをろ法人三十六人の手仕をわるいをくををれい
楠ろうちがふのふのしをいをろをおう

五　鋸屑謂紋鬼

とろを晋乃陶侃をの人船をはるりをそのの鋸屑を像

いをはをへをたををををををををををををををををををををををををををををを
て集中の屋ををるりけをべくをんの鋸屑ををるをしを
屋よをれををべをはををををををををををををををををををををををををををを
勢親年の屋ををををは鋸のををををををををををををををををををををををを
屋をのをわけをを傳法太郎左衛門入乃心領をの人鋸
屑をひををたをの人ををて屋よをれををべをををををををををををををををを
らいをのををけををを鋸屑ををのをををををををををををををををををををを
るをををををを人いをををれいををををををををををををををををををををを
といをべいをををの花をべの秀句を利は無名わるの人
い花をを花ふををべいををををををををををををををををををををををををを
番ほの紙ををを図朋中をよををををををををををををををををををををををを
番結ををををををををををををををををををををををををををををををををを

はおつくはうんどうに善悪ありてたいこさまもこれどのりてのかうにてさげんわしく未れこの名をとはこれ家のたまゝめやどん善悪の縁におにさいりまにとれ出兄ぐんわしくひとりそのの時義経の文云ひいぜんもといひはもこの善悪とそまぐいてこさるいうにと第せけの善悪の縁りけるいめ云ひいぜんもと結けてどうせるへ善悪よりいめもとりにくひとりせば気敵されどもを疾くといひまそそもこれてそくに入結とあ又尾引よ出所とそかられもれおどりもはりてるにはおにんぐりしおはるもれ出るさしのあるぐんせしん敵のは腹の食りとりくもまるあ人食れさげんわしをるとれそぐ元ぐにくれとも れと出所をぐてとりにけるとりの飯い米とあるどりにてたさるあ人わくで

ふのまれるとて上ぶれば後徳いよいよけうげんそこ〇て飯
をそこに米をもりかけるなどいはてたるもうぞ法けど
も屋内めのまとはこうれをそれば出舟いる米をもつれかう
に今一いろ会と入てたさそこど飯ごのよく米やものこと
いひそれば高発の奥ふりてけうげんとお祝りしとん

六 自姓 育

をうこし孟子よりの賢人いとけのさそ死市のうかたをそ
ひしこの孟子わらゆ高賞のまゆこしまひ人孟子母りこの
おとをかしわらずそて人と義わろう和ごうのひしこの
孟子のこわさゆ完とはり義礼のまゆこしまよりいて
こをとおとおくわらずそて学あかろう和人
ひしこの孟子人わさゆまびてはあたびな

こ賢人こそれう孟子よりこうしと孟母ろ三遷と
いうたびくい姓をいとけ死もの詩と学一とうけ
べこうん学にてわる人わしと先と実家の義をよう
わの家へ移組るのわの義をいこわびこけ義
どこと輩とのく姓系番いたてを屋くこわそでに
移組さいまりおはび〇修りと中ぬおまふびこそく
たしこそけんるをあわさて二四三四たんどこはあり
の水をと風呂とをこそびおはび〇わるとのるた輩
とのく内をとをあうわるる和学義とのをとびおして
ちとれ洗足と出ぬ一わ出とうされ名出ぬ和学わとまわ
ひそのよ一ひこけんとて死とたち年寿元をみるれよ
はぬ行〇まれあかせられるひとうまこういばは出もみたるそ

とおぼしまわるる程なれば、ものくいぬ。おせんそくと
いふもれとうぐせとるわこへへんじいうぐせんとげんうすいづ
まもわべどうしけうぬくとあんとれどこらのぐすこれよ
一の家者うるへ一乱よせこうれよ世界天下一の
ちあんこそづがよへおせんそくとおせとひへどこと一乱よせ
てはだをひといふづがようこうあへどわくけうこれ金と
ゆこれるまいるくうこれもはぜ是と一家ようせてござ
らぬといひ

七　答　結郎妙

民引　霊巌寺の和尚わるる大名のもとへまいられ
和尚よむられて来世よいは地獄極楽とゆわれて会れと
ゆせべうめてたるとにるゆひやとこいまへ和尚うこうてさ

まどさこれのようかれとおうひうびおのは敵間のはのちは教
物とおるじのはよくひ今天下たる平の世にこれうひんん
とたとーーゆ色これまでとーはうがちはは用んへ会仲と
又たのおわはぐ極楽をしわうべこのたれこうとはわ
又和尚よて秀都ーこの死ゆわるれのはゆうこ極ーけ
てらとれひうこいひれうれどそれ女どこをぬてそぬうこ法
祢ようはとふさいでゆるへど祢ひこいようはるまへどくいひ
けまべ秀都こうて女れの懐妊ーて腹の大きこれい食の
くうこいようはるまへどくいひーこの秀都わるわくゆさ
くぬーぬてもこのはこれぬはもこれーまりうこん
といへどてのうこうて母のそてぬ分のはれとそぐいう
はといへど秀都こうていうはのうれど母わうこうれ

ひとまれとしたり

八　下の長後義

京都なるくの後義を上命わたごあるにしたく兄ものんさの
ふゆでこれ時へしたりしを都のるが上ゆがくしくじるも
ちろぬとみなこどりてきのすでまつりしるつ門いよそ兄
してしたるなんるつい乳といせんとろ源氏禅いもしるる男
のくい乳ゆるるるいおがへどくれしとやるこがしたてごしく
しくはりく一寺の和尚もまみもしもよび赤石と候ひ
られべるれて一年して指典員ゆせ典ない扇一せにくたさ
ゆどとる員ゆくい員ゆくしたくといひるはやまでてうけばた
とし絵抗ゆりいるあひ丸ゆ上てよとしもしてくゆありわしれ
みるゆ的母を兵絵石の後義にい二条ゆ彼家十後よさへゆ

の藤兵衛と云人ゝ[illegible]ありまして[illegible]の[illegible]後家に物[illegible]
[illegible]をみおぼしたえんとこゝろうけてさてはうれしさのあまりそば
にさしてゆるすとかうの和尚はしばるるにて後[illegible]も[illegible]を
[illegible]男わとも[illegible]をみまいまもとゝかあてゝ[illegible]
[illegible]わ和尚客殿[illegible]ゝ[illegible]わ[illegible]
[illegible]人なる一句[illegible]人[illegible]
のこりてさていとゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

に入てそでんりうとこにいたると紙の清みて中くつ先をたれば
ぬとまゆにをうなびくこのてのうめをくおわづけ一ゆ十あり乃
小判はひ方へ利はようろうとれ大きう利をそんとそ六十あの
金をーゆひろう町人のれいつうさまるのわりこさ賞与の内歩分はね
うつうぬ人わるゆ浪人ちゑのかどそもう来へかりてか国利
乃家へ、とをそれば国利のまとうかどゆとく覚そうんとたくそ
てこのかいちゑにわいだ仕もしくのこの浪人移ちよりて人大
力をくてこりうと国利の家まりへとつけてこの浪人のれと
ちうんあまんそ〻ら浪人とれよーまけりて来へくるをいる
ゑうちかどりしいでくおまてゆゑゆまうわてくにせちゑふい
くふとうぬすくそれりくまりううまれてにくみげこと内へ
いりあわしとをそいーとこのゑーまそれをおどつさ来へのだ

ゆてちうくくうの国利乃家へおどんとそうべそ乃れありた愛と
うんそ出りひのにうしへうかぬーゆ家ゆ入てなりひいるそ
和くそ浪人あわいてくにかのまれわりゆかにゑまるまそ来乃
国利のにせくしいひーくうこにうとうう小判石ゆあるくし
うんくうのうちひいの男をそわうゑ巫のかうまれゆゑ内と
くしのひゑまりたをまそうゆくくうゆへくよの浪人中くに国人
せどとうく称ごうて食ゆをあにのいりなひいの男へまうこ
びて来ゆうがるこれかのまれいそんのひうゆにいわゆびめ来
いそへまをそれてうのまりうへいゆーめのかにてわゆもうること
わまりにた来ゆうへいて安歌をたうた先ーこ

305
119

昭和十四年五月廿五日印刷
昭和十四年五月廿八日發行

新生期
第七回

東京市牛込區富久町八十四番地
編輯兼發行者　山田清作
印刷者　佐藤謙之介
印刷所　阿部鎮五郎
製本者　池上幸二郎
東京市牛込區富久町八十四番地
發行所　米山堂
電話番号牛込(33)六〇八番
振替口座東京一六〇八番

稀書復刻會
非賣品

印行三百部之内
第　號

終